滋賀県立八幡工業高等学校新聞部
TELL 0748-37-7227
印刷所　ひがし印刷
TELL 0748-46-2108

第60回卒業式 174名の巣立ち

本日の十時より本校体育館にて、第60回卒業証書授与式が挙行される。式中では生徒会長の川本正太郎くんが在校生代表で送辞を述べ、機械科の今井健晴くんが卒業生代表で答辞を述べる。

コロナ元年の四月に入学し、休校から始まった高校生活。行事の中止・縮小を数多く経験しながらこの日を迎えることとなった。未来へと歩みを進める卒業生に、在校生一同、精一杯のエールを送りたい。

行け行け八工生　八工魂どこまでも

若年者ものづくり競技大会 敢闘賞受賞

塩貝亮雅くん

しおがい　りょうが

ジュニアマイスター顕彰制度 特別表彰受賞

木本悠太くん

きもと　ゆうた

本当は、紹介したい卒業生が山ほどいる。紙面の関係上、二名だけを取り上げることになるのが悔しくもある。今回は、代表して電気科の木本くん、機械科の塩貝くんに話を聞いた。三年間、二人はどのように自分磨きをしたのか。参考にして欲しい。

→塩貝くん(写真左)ものづくり競技大会敢闘賞賞状と銅メダルを手に。

危険物取扱者免状と第一種電気工事士試験のテキストを手にする木本くん↑(写真右)

塩貝くん

「めちゃくちゃたくさんの人に支えられた」感謝の想いで臨んだ全国大会

「ものづくりって楽しい」基礎基本を押さえ　機械工学の道へ

八工に入学してどの部活に入ろうか悩んでいた塩貝亮雅くん。友達に誘われて入部した機械工作部で「ものづくりって楽しい」と目覚めたという。

旋盤が一人一台使える恵まれた環境もあり、先輩からどんどん技術を吸収した。「今までやったことの無いことをどんどん教えてもらえた」と塩貝くんは語る。一年生ながら指導に来る講師の方に一目置かれる程に上達していく。

二年生の夏休みには後輩の指導を任される。先生の不在時には技術指導も行い、旋盤技能検定３級の技術をみっちり教え込んだ。

二年生の終盤、若年者ものづくり競技大会旋盤職種近畿地区選考会で見事優勝。夏の全国大会への切符を手にする。

そこから塩貝君の新たな挑戦が始まった。大会に向け、課題工作物の一部分から練習を始めた。細かな所から精度を上げていき、本番が近づくにつれて全体の練習に移行していった。

そして本番の7月28日を迎える。「めちゃくちゃたくさんの人に支えられていたから、プレッシャーがすごかった」と当時の心境を語る。指導や移動で支えてくれた先生方や後輩に対する感謝の想いで臨んだ。

競技中は、緊張から慌ててしまい、手を切る、バイトを少し斜めに取り付けるなど、序盤にミスをしてしまう。その後、徐々に落ちきを取り戻し、中盤以降は順調に進めていくことができた。自信は全く無かった。

しかしテーパ切削（斜め部分の切削）でコンマ１㎜削り過ぎた。これが響き、結果は敢闘賞（6位相当）。この減点がなければ銀賞だったと後で知り、かなり悔しかったという。

本校卒業後は金沢工業大学に進学し、機械工学を学ぶ塩貝君。「今まで使ってきた工具がどのように作られているのかを学んでいきたい」と目標を語ってくれた。

ものづくりの技術を磨く後輩たちへのアドバイスは「言われたことを素直に飲み込んだほうがいい」とキッパリ。「最初に我流でやると力がつかない。まずは基礎基本をしっかり押さえることが先決」とのこと。

一・二年生諸君。先輩達の経験談を参考にし、個々のスキルアップに活かしてほしい。（竜）

木本くん

最難関 危険物甲種合格・第一種電気工事士も「せっかく工業に来たのだから「あきらめない」

ジュニアマイスター顕彰制度にスイッチオン「八工から大手企業に就職する」

「ジュニアマイスター顕彰制度で特別表彰を受けること」それは工業高校で学ぶ者の憧れだ。ジュニアマイスター顕彰制度とは、検定や資格の難易度に合わせ得点が決められている。三年間で合計30点以上でシルバー、45点以上でゴールドが授与される。60点以上で特別表彰だ。

本年度は三年生で３人だけがその栄誉を得た。そのうちのひとりが木本悠太くんだ。木本くんは67点で特別表彰に到達した。

本校入学前に、本校ＯＢである父からジュニアマイスター顕彰制度を知らされた木本くん。「せっかく工業へ行くんだから」木本くんのスイッチが入った。

一年生の８月、危険物取扱者試験乙種４類合格を皮切りに、二年の夏までで乙種全類を取得。二年秋に第二種電気工事士試験、三年生で第一種電気工事士試験にチャレンジし、１月11日、見事合格通知を受け取った。他にも得た資格は２級ボイラー技士、小型ボイラー特別教育講習修了、技能検定（電子機器組み立て）３級、漢字検定準２級など、まだまだある。

木本くんの勉強方法は、ノートは作らない。「うまくまとめた参考書があるんだから」付箋とマーカーを駆使し、繰り返し要点を頭に叩きこむ。効率の良さを追及した。

第一種電工試験を控えた平日は家で２時間程度、休日は６時間ほど勉強したという。

実は筆記試験の前に「テキストが全然進んでなかった。もう無理かな」と思った時があったそうだ。でも「ギリギリでもあきらめない」と心に決めて取り組んだ。

その結果「筆記試験に無事合格し実技試験に進めたんです。やっぱりあきらめずにやるって大事ですね」と語った。

木本くんは㈱村田製作所に就職する。今後も資格に挑戦し続ける予定だ。目標は第三種電気主任技術者。「アイデアを出せる人材になりたい」とこれからも自身に磨きをかけ続ける。

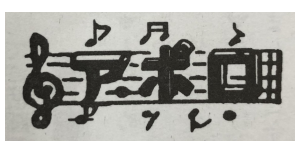
ジュニアマイスター受賞者一覧

【特別表彰】
山川　葵(3-1)
廣瀬匠基(3-2)
木本悠太(3-4)

【ゴールド】
湖出泰雅(3-1)　澤邊　暖(3-1)
塩貝亮雅(3-1)　田中皓久(3-1)
上本琉生(3-2)　寺田祐輝(3-4)

【シルバー】
山内翔愛(3-1)　不破来人(3-3)
守川旺佑(3-3)　鷲塚　柊(3-3)
山田琉偉(3-4)

【ブロンズ】
奥田康介(3-1)　西田文哉(3-1)
上田柊奈(3-3)　濱口蒼真(3-3)
西村侑一郎(3-3)



八工に入学してから、早くも三年。大変なことや辛いことがたくさんあった。主にレポートとかレポートとか。

つらくても辛抱すれば好機が訪れるという意味で、石の上にも三年ということわざがある。日本では文句を言わず、静かに耐えるのが美徳とされている。このことわざもそんな認識から生まれたものだろう。

しかし、本当にヤバいと思ったらその岩に三年もしがみついている理由はない。耐えた経験が後に生きてくるのが明確ならばまだいい。もし耐えた先が暗いなら、その時間と努力は完全に無駄になる。ダメだと思ったら早々に見切りをつけて離れることも重要だ。本来待つはずだった時間を別のことに注げば、きっとそのほうが何倍も有意義な時間になるだろう。

しかし、簡単にスパッと見切りをつけて離れるというのは決して簡単ではない。このままでは全く埒が明かないと分かっていながらも、離れればそれまでしてきたことがすべてリセットされる。過去の努力をもったいなく思ってしまい離れられない。そのような行動をコンコルド効果、またはサンクコスト効果という。

これは恋愛においても言える事。最近相手と上手くいっていない、このまま続けるよりは、別れたほうが二人にとっても良い選択なのではないか。そう思いながらも、今までに費やしたお金や時間、好かれるための努力などを考えると、なかなか別れを切り出せない。そんな無駄な時間が続くことになる。それならば、早いうちに行動に移したほうが良いに決まっている。

でもそんな事は自分には関係ない。だって、愛情やお金、時間を注ぐ相手をつくる事はないのだから。念のためいうが、作れないのではなく作らないのだ。

あれ？目から涙が。

二年の秋から書き散らしてきたこのコーナーを担当するのも、今回で最後だ。来年はきっと誰かがやってくれるだろう。

そういえば、この文章は卒業式の待ち時間中に保護者さん達に読まれるらしい。なのに三年間の部活最後の最後で一番ふざけてしまった。（川）